

縣陵



- 02 巻頭言
 - 04 2学年 首都圏研修／合唱コンクール
 - 05 縣陵創立100周年記念式典／強歩大会
 - 06 1学年 首都圏研修／縣陵PTAの日
 - 07 2学年 普通科台湾研修／活躍するOB
 - 08 活躍する縣陵生
 - 10 さらば友よ！旅立ちのとき
 - 12 縣陵2023年度スナップ／編集雑記
- KENRYO Researchers Grand-Prix 2023 審査結果



令和6年の始まりにあたり

PTA会長 木船 威



令和6年の開始と同時に能登半島地震や羽田空港の航空機事故など立て続けに大きな災害や事故の報に接し驚いています。皆様の中には親戚等被災された方もいるのではないのでしょうか。犠牲となられた方々

のご冥福をお祈り申し上げます。私はたまたま一家そろってテレビを見ていたら、携帯電話の緊急地震警報が一斉に鳴り響き「なんだ?」と思っている内にゆっくりとした揺れがきてびっくりしました。テレビもすぐに地震関連の内容となり、特にNHKの避難を呼びかける緊迫したアナウンサーの声に「東日本大震災なみにとんでもないことが起きているのでは?」と感じさせられました。自然災害は人間の都合なんてお構いなしですがそれにしても「元日からそれはないだろう。今年はどうなる年のやら」と思わずにいられません。テレビやネットでのニュースを耳にするたびに暖かい場所であぐらをかいていることが申し訳ないような気分になります。そんな中ですが報道に対する反応などを読んでみると世の中には様々な考えの人がいて、こんな考え方、見方をしているんだと思わされることが多くあります。中には接してあまり気分がよくないつぶやきなどがあつたりすると悲しい気持ちになります。それも多様性というものなのではないでしょうか。SNSなどの発達により個人の考えが表明しやすい時代ということもあるのでしょうか、全員の満足する方法や手段はきっとないのではないかと考えてなりません。誰がどうか不満はあるでしょう。だからこそ「自分」を中心に考えるのではなく、「集団」や「社会」の目標、幸福は何かを考えて

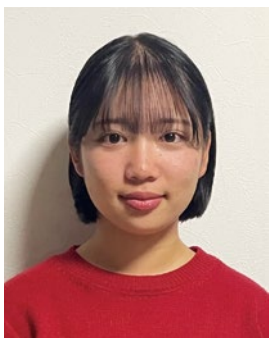
行動することが大切なのではないでしょうか。そんなときこそ「相手の立場に立って考える心」が大切なんだろうなあとと思っています。震災と同列に語っては申し訳ありませんが、PTA活動だつてきつというんな思いが皆様の中にあるのでしょうか、大きな問題とならず一人ひとりの協力で助けられて成り立っていると改めて感謝申し上げます。

私事ながら中学校に勤務しています。3学期がスタートしました。被災地の中学校では避難所が開設されたりして始業式どころではないだろうなあとと思っています。我が校の始業式では各学年の代表生徒による作文発表が行われるのですが、1年生は「先輩となる」2年生は「生徒会の運営」や「学習に力を入れていく」、3年生は「進路実現」「受験勉強を頑張る」や「中学校生活の思い出作り」などの言葉が見られました。4月の1学期始業式の時から考えると考え方や話し方、顔つきも成長しているんだなあと頼もしく感じられます。振り返って毎日顔を見ている我が家の高校3年生もきっと成長してくれているでしょう。高校も同様に3年生にとっては進路を決定する大切な時期となっております。かくいう我が家も共通テストを控え緊張感の漂う中、父親としては娘の努力が実を結ぶことを信じて余計な波風を立てず静かに過ごすばかりです。本人は学習の合間の息抜きと称し、だらけている姿を見ても一言いいくなる気持ちをグッとこらえるのも親の務めでしょうか。

何はともあれ令和6年が始まりました。私としては自分のできる範囲で、無理せず健康で毎日を乗り切れることを心がけていきたいと思っています。PTA会員の皆様にもよい年となるようお祈り申し上げます。

「今」を生きる私たちの役目

生徒会長 2年G組 小澤 羽音



コロナ感染拡大から4年が経ちました。そろそろ「コロナは収束した」と言っても良いのではないのでしょうか。ソーシャルディスタンス・外出規制などは嘘のようで、周りを見ればマスクを付けていない人が増えていました。

これはとても嬉しいことであり、同時に大きく変わるチャンスでもあると思います。大きく変わるというより、コロナ禍前の制限のない生活に戻るといった方が正しいのではないのでしょうか。

現在、不自由な生活に慣れてしまった私達は、どこか大切なものが欠けてしまっているように感じます。と言うのも、今年の縣陵祭では2年ぶりの一般公開をしました。売店が立ち並び、文化部発表はより盛り上がりを見せ、縣陵生の楽しむ姿が蘇ります。しかし、それは何ヶ月も前から準備をした委員やスタッフがいて成り立っているわけで、必然と生まれたわけではありません。その事実を縣陵生全員は

知っているのでしょうか。急激に進んだネット社会では、個人情報流出などが世界規模で起こってしまうのに対して、縣陵生の成果や活躍が学校規模でさえ広まっていない状況に、私は危機感を覚えました。同時にコロナ禍を生き抜いた私たちは「何事も当たり前ではない」と言う事を思い出させられました。私たちはこの経験から、縣陵生の素晴らしい功績から些細な特技までを全校で共有し、それを自由に生徒間で利用できる環境をつくる必要があると思いました。そして、いつ何が起ころかわからない社会の中で、一人ひとりの持つ個性が輝き、どんな時でも協力できる縣陵を作るべきだと確信しました。

今期で縣陵は101年目を迎えます。この先、10年、50年、100年と、世界がコロナのような制限に強いられても縣陵は乗り越え、歩み続けるでしょう。そんな縣陵のために、コロナ禍前の自由な高校生活を取り戻し変化させていくのは、今を生きる私達であり、今なのです。「どれだけ大きな逆風にも負けない輝き続ける縣陵」を作りましょう。ぜひ皆さんの、ご参加、ご協力よろしくお願いします。

かわいい子には旅をさせよ

校長 徳永 佳代



アカデミーの練習風景

昨年12月24日から30日まで、JICA(ジャイカ・国際協力機構)の管理職研修に参加し、全国の校長・教頭等9名と一緒にカンボジアを訪問しました。国際探究科を設置する高校の校長として、国際理解・開発教育について考える機会となりました。

研修中、首都プノンペンから車で3時間ほど南西にあるスパイリエン州を訪ねました。ここに日本の支援によるサッカーアカデミー(セレクションに合格した子どもが通うサッカーの学校)が開設されています。カンボジアではサッカーは人気のスポーツで、2021年にはプロサッカーリーグも誕生しています。

さてこのアカデミーに指導者としてJICAから派遣された信州人がいます。松商学園サッカー部のOB(平成26年卒業)の増澤尚亨さんです。松本から、しかも隣の県ヶ丘から来てくれたとあって、増澤さんは笑顔で迎えてくれました。

現地でのサッカー指導は、最初はかなり大変だったとのこと。日本の部活動と異なり、子どもたちが毎日コツコツ練習する習慣がないので、大会がある週だけ練習に来たり、あるいは保護者も「サッカーはやめて家計を助けて働いてもらいたい」と考えていたり、全員揃うことが少なく、継続した練習ができないことでご苦労をされたそうです。しかし増澤さんは、チーム力を上げるためのマネジメントに注力し、例えば出席状況や走り込みのタイム等様々なデータを数値で表し、練習の成果を「見える化」することで生徒たちのモチベーションを上げました。靴をそろえる、モノを大事にするといった心の教育も大切に、子どもたちに声をかけ続けました。今では選手同士が「練習に出よう」と声を掛け合うようになって欠席も減ったそうです。頑張ってきたことは結果につながります。スパイリエン州はカンボジアで2位のチームとなり、増澤さんは「子どもたちの心の変化にやりがいを感じた」と話してくれました。

大学時代にボランティアでカンボジアへ行き、そこでサッカー大会の運営に携わったのがきっかけで、増澤さんはスポーツを通じて国際ボランティアをしたいと青年海外協力隊に応募したのだそうです。お話してみると、この若さで自分の考えをしっかり持っており、一本筋が通っている。コミュニケーション力も高く、相手を尊重しながら明るく楽しい雰囲気でお話ができ、現地の人に溶け込む努力もされていました。どうしたらこんな素晴らしい青年に育つのか、どんなご家庭

で、どのように育てられたのだろうかと思いました。聞けば、進学する高校を決める時からカンボジアへ行くまで、ご両親は「やりたいことがあるならやればいいし、最後は自分で決めなさい」と、増澤さんの決定に一切反対しなかったといいます。ご両親もきっと心の中では心配だったと思いますが、それをあえて言わず、我が子の選択を尊重し、見守ってきたと想像します。

一度だけご両親がカンボジアを訪ねてきたそうですが、増澤さんがいるスパイリエンには来ず、反対方向にあるアンコールワットと一緒に観光して帰っていったとのこと。充実した顔で出迎えた息子の姿を見て、あえて職場を訪ねる必要がなかったのでしょう。

増澤さんのように、保護者が子どもを信じて必要以上に干渉しないことで、子どもは自分で考えるようになり、自立していきます。本校卒業生の映画監督・山崎貴さんのご両親もそうでした。山崎監督は高校時代、親から勉強しろとは一度も言われなかったといいます。しかし、世の中こうした保護者ばかりではないようです。子どもを心配するあまり、生活に細かくルールを定めたり、親が成績についてあれこれ口を出したり、あるいは先回りして転ばぬように石を除こうとする。これは心配を通りこして過保護や過干渉になりかねません。もしも山崎監督のご両親が過干渉な親であつたら、あの才能は開花しなかったのではないかと思います。過保護・過干渉は子どもの自立を妨げるだけでなく自己肯定感を下げるといった報告もあります。

そもそも子どもたちの最終ゴールは大学に行くことではなく、幸せになることです。一度きりの高校生活、保護者の皆様には、子どもたちが「好き」や「楽しい」、「なぜ」をとことん追求できるよう見守ってください。そしてどうか子どもさんを信頼し、少しだけ手元から放してみることをお願いしたいと思います。昔の人は言いました。「かわいい子には旅をさせよ」と。



写真中央が増澤さん。左はアカデミーの生徒

7月25日(火)～27日(木)

2学年 首都圏研修

学習意欲を高めるために本来は1年次に行う行事ですが、コロナ禍でできなかったため今年度実施しました。貴重な体験ができたようです！

旅程

7月25日(火) TGG(東京グローバルゲートウェイ)英語研修

7月26日(水) 大学研修※コース別……………東京・東京工業・一橋・東京学芸・早稲田・慶応・東京外国語・国際基督教(ICU)・横浜国立・筑波

7月27日(木) ※探究科のみ……………海外研修事前学習 羽田空港研修



1日目 TGG 研修



2日目 大学研修



3日目 羽田空港研修

生徒からの感想

1日目 / TGG英語研修

- 自分から英語を話そうと頑張りました。間違えても大丈夫と思って普段より楽しく英語が使えました。
- ネイティブのエージェントに勇気をもって積極的に話しかけることができ、実際の会話で感じた自分の英語能力の弱みや会話の楽しさを肌で体験した。英語学習の刺激になる最高の機会だった。

2日目 / 大学研修

- 大学の雰囲気を感じることがとても大切だと思った。自分の進みたい学部がどこなのか再確認することができた。卒業生の方に受験勉強についてお話を聞いて勉強しなきゃって思った。
- 学校の特色というのはこんなにも顕著に表れるものなのかと驚いた。偏差値や学部だけで考えがらだったが、実際に足を運ぶと雰囲気が伝わってきて面白かった。

3日目 / 海外研修事前学習・羽田空港研修

- ALTの授業や1日目のTGGとはまた違ったネイティブとの会話で苦労した。英語で応答するだけでなく、空港に関する知識も持ち合わせていないといけないため、とても困難に感じたが、英語で回答することでより記憶に残りやすい内容になったと思う。

9月12日(火)

合唱コンクール @まっもと市民芸術館



3年G組

3年G組 小林 照生

1年前、G組は金賞に終わった。みんなでやり切り、気持ちよく終わったからこそ、悔しく、来年こそ「最優秀賞」をこのメンバーで取ろうと思いついた。転校した仲間がいて去年のメンバーで合唱することはできなかったが、気持ちや目標は同じで舞台では幸せに満ちていた。

しかし、練習から完成度が高かったわけではなく、音楽の感じ方の違いなどで綺麗に合うことは難しかった。何より、まとめる立場にある自分が思ったことを上手く伝えられなかった。それでも練習を重ねるほど一つになる声や気持ちは、お互いを尊重できるG組ならではの感覚を感じた。正直なところ最優秀賞を取ることは練習の時点で感じていた。

本番、観客が消えているのでは、と思うくらい集中していた。クラスが一つになる瞬間は、1×38人が100にも200にもなるクラスだと感じた。練習でやったことの120%を発揮するパターンもあるのだと驚いた。響き渡る歌声を聞きながら見たみんなの笑顔は最高で、自分も思わず頬が緩んだ。

ここまでできるG組の人なら今後も音楽を楽しんでほしい。自分で楽しむ音楽もいいが、誰かに伝える音楽もやってみて欲しい。

合唱コンクール結果

賞	クラス	曲	指揮者	伴奏者
最優秀賞	3G	結-ゆい-	小林照生	米夏希
金	3B	糸	乾美優	中野佳奈
	2A	民衆の歌	荒崎優芽	田上乃愛
銀	3A	あなたへ ～旅立ちに寄せるメッセージ～	松田昌樹	中嶋桃和子
	3C	言葉にすれば	小林将也	丸山桜季
	3F	友～旅立ちの時～	中村友	矢野颯世
銅	3D	可愛くてごめん	中村舜	渡辺優陽
	3E	春愁	片山力間	野村凜花
	2E	大丈夫	浦野亜笑	服部美宇
	1A	虹	小林朔弥	横山美瀬
指揮者賞	3G	小林照生		
伴奏者賞	3F	矢野颯世		



9月30日(土)

縣陵創立100周年記念式典



100ページ目を創って感じたこと

実行委員長 3年G組 池田 瑞稀

縣陵100周年生徒実行委員長として様々な企画をおこなってきましたが、どれも難しい戦いでした。というのも100周年という節目の年はこの縣陵の長い歴史の中で一度しかないわけで前例というものがありません。ここまでの企画はすべて初めての試みでした。委員長として100周年という縣陵にとって重要な年に新しいチャレンジをしなければならないというのはとてもプレッシャーでした。そんな自分を支えてくれたのは委員のみんなや先生方の協力だったと思います。

生徒実行委員会では「100ページ、この物語は続く。」というスローガンのもと活動してきました。このテーマには100周年という節目を迎えて終わりではなく、これからもずっと積み重なり、歴史を通して過去の人とも未来の人ともつながっているという思いが込められています。縣陵は新しいことに挑戦するのが得意な学校だと思います。過去を振り返り伝統を大切にすることも大事だと思いますが、新しいことに挑戦して「縣陵物語」の新たな1ページを創って行って欲しいです。

100周年記念式典を終えて

副実行委員長 3年G組 犬飼 陽南乃

私は、モニュメント制作の責任者として主に100周年の活動を行いました。今回制作した太陽光線を使ったモニュメントは前例がなく、制作時は試行錯誤の連続でした。縣陵祭でお披露目を行い、多くの来校者に立ち止まって見ていただき、モニュメントの影が完成する南中時には多くの方と一緒にカウントダウンを行うことができました。100周年の活動を通して、縣陵の過去を知り、未来を考えられる良い機会となり、とても貴重な行事に実行委員会として参加できました。このことは、私にとって良い経験となりました。

10月20日(金)

強歩大会

大会結果 男子

順位	記録	クラス	クラブ	氏名
1	1時57分00秒	2年H組	陸上	新山 堅太
2	2時04分09秒	3年F組	陸上	久保田興輝
3	2時05分38秒	2年A組	陸上	青島虎太郎
4	2時07分35秒	2年G組	陸上	神戸 慎平
5	2時09分04秒	2年E組	陸上	浦野 亜笑
6	2時11分30秒	2年G組	山岳	松崎 梓
7	2時11分45秒	2年A組	山岳	川口 智崇
8	2時11分53秒	2年C組	卓球	宝泉 陽大
9	2時14分25秒	2年D組	サッカー	竹野入勇吾
10	2時24分47秒	2年C組	サッカー	赤羽琥太郎



男子1位 2年H組 新山堅太

今回の結果は、決して一人で成せなかったものだと思います。両親や友人など様々な人に支えられながら勝ち取れました。これからも周りへの感謝を忘れずに更に成長できるように頑張っていきたいと思います。

大会結果 女子

順位	記録	クラス	クラブ	氏名
1	2時47分24秒	2年A組	バスケ女	浅見 優空
2	2時50分15秒	3年E組	陸上	辻 芽衣
3	3時00分53秒	2年G組	バドミントン	岩水 晴香
4	3時01分00秒	2年G組	陸上	上條 佑依
5	3時01分05秒	2年F組	バレー女	橋詰 真知
6	3時01分06秒	2年D組	バレー女	村上 心花
7	3時01分52秒	2年G組	陸上	青木 真江
8	3時05分32秒	2年A組	サッカー	田上 乃愛
9	3時06分40秒	1年H組	陸上	小林 莉緒
10	3時06分43秒	1年H組	陸上	大澤 日向

女子1位 2年A組 浅見優空

私は今年初めて強歩大会に参加しました。友達から山が大変だったと聞いていましたが、実際に思っていた以上の坂に驚きました。ですが自分のもっている力を十分に発揮する事ができ、良い思い出になりました。

10月31日(火)～11月2日(木)

1学年 首都圏研修

旅程

- 1日目 10月31日(火)** TGG研修
2日目 11月 1日(水) 企業訪問
3日目 11月 2日(木) 大学・研究機関 見学



1日目 TGG研修



2日目 企業訪問



3日目 大学・研究機関 見学

生徒からの感想

1年A組 小林 杏朱

今回の研修では今まで触れたことが無かったことにたくさん触れることができました。企業研修では教科書や資料集のあれこれ、研究機関訪問ではパレスチナ問題について、新しいことをたくさん学べてとても楽しかったし、さらに教師になりたいという気持ちが強くなりました。今まで知らなかったことを直接教えていただくことでもっと知りたくなる気持ちを得ることができたので今後もそういうスタンスで生きていきたいです。英語が今までつまらなかったけど話してみたら面白くなってきたからこれからの英語の授業ちょっとがんばってみようかなと思います。

1年C組 中禮 洸斗

TGG ではジェスチャーなどでなんとか伝わったけどもっと英語力で伝えられたらスムーズにできたし良かったかなと思いました。駅でも海外の人に聞かれてその時もなんとかはなっただけどもう少し分かりやすく答えなかったなと思ったので英語の勉強をもっと頑張って海外の人ともコミュニケーションを取れるようになります。大学では志望校でもあったので目標がより明確になりました。企業訪問ではまだ先のことだけど、将来の夢がざっくりしていたのが少し具体的になりました。10年後待てるよと言ってもらえて嬉しかったです。

11月11日(土)

縣陵 PTAの日



PTA 研修交流委員長 矢野 正文

令和6年の幕が明け、はや半月が経ちました。年初より能登半島において大きな地震に見舞われ、大変な年明けになりました。被災された方々へ謹んでお見舞い申し上げます。

昨年11月の「縣陵 PTA の日」において、講師に竹内忍さんをお招きし、『自分らしさを活かす縣陵生へ ―その時、親は!?―』という演題でご講演いただきました。竹内さんの多種多様な境遇の教え子たちが、なりたいた自分を型にはまらない課外授業を通じて見つけていく姿が印象的でした。決して一人で成功したのではなく、特別勉強ができたわけでもなく、裸一貫で自分をさらけ出し周囲と関わりながら自分ができることすべきことを模索していたからこそ、自分らしさをつかみ取ることができたのだと思います。

昭和で常識だったことが令和では非常識、時の経過とともに時代は常に変化しています。親が生きてきた時代と子が生きている時代が違うわけですから、当然親と子で価値観が相容れないものになってしまいます。親は人の倫から外れたことのみを咎め、それ以外は子に任せられた方が、将来において多様な人と関わり合い、支え合い、喜び合える豊かな人生を歩めるのではないかと感じました。

3年生の皆さんは、高校生活もあとわずかになりました。人生の節目節目に試験や受験というもののはつきものですが、決して目的ではなく、なりたいた自分に近づく手段です。受験を機に自分探しの一步を踏み出していいただければと思います。

12月4日(月)～8日(金)

2学年 普通科台湾研修

コロナ制限が解除され3年ぶりの台湾研修となりました。

旅程

- 12月4日(月)** 出発 羽田空港、中部国際空港から
12月5日(火) 学校交流
12月6日(水) 高尾市フィールドワーク
12月7日(木) 大学訪問 B&Sプログラム
12月8日(金) 帰国



台湾と私

2年C組 大野 玲央

私は今回の研修を経て、台湾の方の積極性と言語レベルの高さを学びました。現地の店員は、私が日本人だと分かると、どんなに拙くても日本語を使い、ジェスチャーも交えて説明してくれました。台湾の大学生と交流した時には、人見知りで目上の人と話すのが苦手な私の様子を見て、大学生の方がラフな雰囲気です話してくれました。このように相手を尊重しつつ積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢は見習うべきだと思いました。

また、台湾に行く前は、日本と台湾の学生に大きな学力の差はないと思っていました。しかし、いざ台湾の高校生と交流すると、流暢な英語に圧倒されてしまいました。自分では学校の授業を通して英語ができるつもりになっていましたが、それはあくまで査用の英語であり、会話などの実践的な英語はまだ身についていないと感じました。

この研修で学んだことを今後の学習に活かし、進路実現に向けて努力していきたいです。



活躍するOB



諏訪赤十字病院勤務
医師

高 52 回卒
(平成11(1999)年度卒)

大池 洋

私は、医師となり今年で9年目、泌尿器科医となり7年目を迎えています。泌尿器科医の仕事は、腎臓、尿路、性機能の疾患に対して、診療を行うことです。泌尿器科の特徴として、病気の診断から薬物治療、手術療法を内科や外科的に分担することなく総合的に行う点です。病気の特性や進行状態によって、治療に必要な知識や技術は多岐にわたります。たとえば、局所癌に対しては解剖学の知識や手術の技術、進行癌であれば、抗がん剤治療に関する薬物の知識や副作用への対応、また、どんな疾患であっても患者様の希望や日常生活能力やとりまく生活環境を十分把握する。そのためコミュニケーション能力が必要となります。日進月歩の医学の世界では未熟な点が多いですが一日一日と研鑽を重ねています。

さて、高校生活というのは、これからの人生の進路を模索し、それにむかって進んでいく一歩を踏み出すとても重要な時期だと思えます。高校時代に自分の将来について明確なビジョンを持てることはとても素晴らしいことと思えますが、それができるのは一部の限られた生徒だけかもしれません。私自身がそうであったように多くの生徒は、将来やりたいことが描くことができないことや、漠然とした興味でその先まで見通せないことがほとんどではないでしょうか。

私の場合、医師となるまでの道は紆余曲折を経たものでした。高校生活を振り返ると、優等生とは遠くかけ離れた生徒でした。入学後

所属した運動部は怪我をきっかけに早々に退部し、勉強については全く手につかず成績は常に最下層を推移していました。当時を振り返ると目標や将来のビジョンがほとんど描けていませんでした。その後1年間の浪人を経て、漠然と興味を抱いた物理学を専攻する名古屋大学理学部へと進学しました。そこでも明確な目標がもてず、実際に医学を志すようになったのは、大学進学後の4年生の時でした。高校大学と自分の進むべき道を模索しながら、周囲の友人や同僚、親族と将来について対話することで医師を目指すことを決意しました。その後信州大医学部に入学しました。入学前は年齢が大きく離れた同級生との大学生活に強い不安がありましたが、入学してみると自分と似たように他大学や社会人を経て医学部に入学する人がとても多く(私の代はなんと全体の2-3割が再受験生)、そういった環境であったため現役学生は年上の同級生に対して気兼ねない関係を築くことに長けており、とても充実した第2の大学生活を過ごすことができました。このように私自身は他の人と比べると将来設計に時間がかかりましたが、周囲の人や環境に恵まれたため、現在の私に至ります。

将来の目標を設定できる時期、またそれにむかっていける時期は人それぞれかと思えます。私の経験から、目標が定まらないと何をしたいのかわからずつい非生産的とも思える時間を過ごしてしまいます。そんな時、一人で思い悩み、殻に閉じこもるよりは、友人、親族、先生など周囲の人間と積極的に関わり外的刺激を受けていくことが自分の目標設定に大きなヒントを与えてくれるでしょう。保護者としては、このようなお子様のモラトリアム期に対しては心配が尽きないかもしれませんが、温かく見守りつつも、対話を通してポジティブな指導やアドバイスをすることが、お子様のアイデンティティ確立や将来設計に大切かと考えます。

皆様の明るい未来と活躍を心から応援しております。

活躍する縣陵生

探究科

ICTカンファレンス2023最終報告会へ出場

「新たな世界の発見」

2年A組 荒崎優芽

私は12月19日にICTカンファレンス2023最終報告会のため、文部科学省・子ども家庭庁・総務省の3省庁に伺いました。これはICT機器の利用について高校生の立場から考え、発信していく活動です。長野県大会には3人で出場し、全国大会、最終報告会には一人で出場しました。2人の支えのおかげで、最終報告会で政府の方々に直接意見を届けることができました。報告会では、私たち高校生が小中学生・親世代・高齢者に対し、ICT機器について発信することを提案させていただきました。この経験を通して、挑戦してみたからこそ学べる価値観が多く存在していることを実感し、挑戦してみないとわからなかった自分の知らない世界を知ることができました。多くの人との関わりから、他人の意見を聴いて、自分の意見を深める大切さを学びました。今後は、今回培った経験を活かして自分の輝ける新たな世界を見つけていきます。



日本動物学会



2部門で最優秀賞!

理科 宮下 達郎

三重大学で12月に開催された日本動物学会中部支部大会に、2年生4名、1年生15名が参加しました。今年度、個人探究や能登臨海実習で取り組んだ“動物や微生物”に関する研究の成果を発表してきました。会場には100名近い研究者や院生、大学生が集う盛況な学会でした。その中で堂々と落ち着いて発表する縣陵生はとても頼もしかったです。「高校生口頭発表の部」で2A田中葉君の「長野県松本盆地の屋敷林・社寺林における猛禽類の生態とその林の役割」が、また「高校生ポスター発表の部」では2A清水結月さん・2B渡邊咲奈さんの「活性汚泥を用いた廃棄野菜の短時間かつ効率的な液肥化」が、見事「最優秀賞」を受賞しました。多くの発表の中で縣陵が2冠を達成する快挙です。本格的な学術学会で探究の成果を発表し、専門家からアドバイスと評価をいただく貴重な機会となりました。

物理化学部

科学の甲子園に出場して

2年B組 肥後 直樹

科学の甲子園とは、理系科目6教科の筆記試や、与えられた課題を考察して解決する実技試験をチーム内で協力して受ける、高校生を対象とした大会である。私たち縣陵物理化学部は、この大会に出場することを決め、それぞれの担当教科を決めて夏休み前から準備してきた。そして当日、その成果を十分に発揮することができた。筆記競技では、一人では分からなかった問題もチーム内で話し合っ、時間ギリギリまで粘って問題を解いた。部のチームのほとんどは一年生で、履修範囲外からの出題も多かったが、以前から予習を積み重ねていたことが役に立ち、ほとんどの教科で高得点を取ることができた。実技競技では、事前に与えられていた課題への準備や運も相まって、1位を取ることができた。総合結果は惜しくも第3位となって全国大会へ進むことはできなかったが、大変満足のいく結果となった。



バドミントン部



新人戦を終えて

2年D組 土屋 陸 / 2年G組 岩水 晴香

私たちバドミントン部は12月初めに行われた長野県高校新人体育大会の団体種目で男女ともに3位入賞を勝ち取ることができました。部員全員で一つの目標に据えていたので達成感がとても大きかったです。私たちはこの大会を通して学んだこと・体験したことが多くありました。

まずは中信大会との違いです。団体戦経験のないメンバーもいたなかで、今回の会場は多くの人が初めてプレーする体育館でした。ですが、何よりもまだ体の慣れない初戦から他地区のプレーに対応することがとても難しかったです。

次に、応援です。同じ目標に向かうチームメイトを応援するのはもちろん、中信の選手をお互いにエールを送ることは、どこか中信地区が一丸になったような気がして、とても充実感がありました。一方で、県トップレベルのプレーを見て自分たちに取り入れられそうなものを実践し、来夏の総体に繋げていきたいと思います。

男子バスケットボール部

長野県U18バスケットボールリーグ1部昇格!

2年B組 橋本 唯永

私たち、縣陵男子バスケットボール部は今年度の目標の一つとして「リーグ戦2部優勝」を掲げて日々練習に励んできました。

リーグ戦第1節が始まるまでに大会や練習試合がありましたと思うようにいかないことがあったり、怪我人が出たしまったりなど不安が多く残る形で第1節を迎えました。そんな中でもチーム全員で戦い抜き勝利を重ね、リーグ戦を消化するに連れて満足のいく出来になっていきチームでも手応えを感じています。結果として現段階では全勝し最終節を残してリーグ戦2部優勝、そして来季1部昇格が決定し、目標を達成できたのでとても嬉しく思っています。

ここまで来られたのは、チームに関わってくれた多くの方々のおかげなので、感謝を胸に今後も頑張っていきます!



サッカー部



2部リーグ優勝、1部リーグに復帰をして

2年D組 赤羽 健吾

高校サッカー界はJリーグのように階層性になっています。昨年度1部リーグから降格してしまいましたが、今年度14節からなる2部リーグで優勝し、1年で1部リーグに復帰となりました。私も3年生と共に試合に出させてもらい、良い刺激を受けました。しかし、最低限の目標はクリアしたものの、高校総体、高校選手権、新人戦と私立に負けて、目標である「全国大会出場」に届かず、まだまだ力不足を感じました。来年度1部リーグの中で県立校は縣陵だけです。1部に所属することに満足するのではなく、もっと上を目指していけるように力を付けていきたいと思っています。

さらば友よ！



A組

Hitch your wagon to a star.

自分の車を、宇宙の遙か、星に繋げ。目の前に心配事や不安、困難はあるけれど、視線を遠くに、目標は大きく、自分自身を宇宙の星に繋げていく壮大なイメージ。人生を最高に旅せよ。頑張れ！縣陵生！

担任 宮下 達郎

くちびるに歌を持って。 心に太陽を

B組

卒業おめでとうございます。
明るく楽しく、様々なことにチャレンジした3年間でしたね。
ひとり立ちすると自由な反面、苦労もあります。
「くちびるに歌を持って。心に太陽を持って。」
(ツェーガル・フライシュレン)
この精神を忘れず、ステキな人生をつくりあげてってください。
みなさんのこれからの活躍をたのしみにしています。

担任 金澤 大典



C組

3年間ありがとう

新たな世界でなんでも挑戦し、爪痕を残してください。卒業おめでとう！自分を大切に生きてください。

担任 伊東 香奈江

出会いを大切に

D組

縣陵での3年間の様々な人との出会いに感謝し、新たな出会いを大切にしてください。
生徒の皆さんそして保護者の皆様3年間本当にありがとうございました。

担任 上條 浩



旅立ちのとき



E組

ありがとう

「この世で生き残る生き物は、もっとも頭の良い生き物でもなく、もっとも強い生き物でもなく、もっとも変化に対応できる生き物だ。」
(チャールズ・ダーウィン)
何事も楽しむ心を持ち続けてね。

担任 福田 孝子

探究し続ける人生を

F組

卒業おめでとうございます。
これからは教科の勉強だけでなく、より自分の趣味などにかける時間(お金も)増えます。いろいろな物事に触れ、一生楽しく「探究」し続けられる人生にしてください!

担任 降旗 史朗



一期一会

G組

何事にも一生懸命で真面目で素直な皆さんとの学校生活は毎日やりがいがあり、充実していました。立派になってまた再会できることを楽しみにしています!!

担任 浅輪 賢史



H組

卒業おめでとう!!

3Hのみんな! 縣陵の学び舎から、大きく羽ばたけ!!

担任 馬場 剛史



縣陵2023年度 SNAP



KENRYO Researchers Grand-Prix 2023 (令和5年度課題探究発表会) 審査結果

- ◆大賞：升田 陽美(2A) リップ大革命!～不要なリップからマーカーペンを作成する
- ◆優秀賞(普通科3名・探究科3名)
 - 普通科：伊藤 翔一(2C) 「蜘蛛男」スパイダーマンの糸を作る
 - 根橋 十夢(2G) リバウンドを制する者は試合を制すが、、、
 - 西尾麻理子(2H) Non-standard vegetables make you happy!!!!
 - 探究科：田中 葉(2A) 長野県松本盆地の屋敷林・社寺林における猛禽類の生態と林の役割
 - 橋本 昂賢(2A) Pythonを用いたWikipedia記事の信頼度評価
 - 升田 陽美(2A) リップ大革命!～不要なリップからマーカーペンを作成する
- ◆Best English Presenter
 - 中澤 舞(2A) Maimai can save the earth!! ～Biomimicry of snail's shell～
 - 飯ヶ濱知世(2B) How context culture influences communication : To build good relationships through explicit conversation
- ◆奨励賞(普通科9名・探究科6名)

<ul style="list-style-type: none"> 普通科：鎌田 琳野(2C) 音の周波数が植物の成長に与える影響 古旗 岳(2C) 卵の殻がチョークに!? 加藤 志音(2E) バレーボール分析学～数値で考える勝つためのバレー～ 山本 真央(2E) 薬を飲みやすくするために 山田 一輝(2G) 地球って美味しいの? 探究科：大槻依音菜(2A) キープおにぎりバリバリ～清潔なおにぎりフィルムを目指して～ 樽速 紅音(2A) 非常食にやさしい日本語を 小澤 美紅(2B) 使い終わった文房具を变身!! 	<ul style="list-style-type: none"> 鈴木 脩也(2C) やさしいピブスをデザインする 手塚 麻実(2D) SDGsとアロマ 杉本朔太郎(2E) 江戸時代の数学 和算 板花 舞奈(2F) ラベンダー精油と身体的効果～快適な時間と暮らしを～ 小松 千紘(2A) おもしろ歴史年表～歴史学習の面白さを伝えるためには～ 橋本あかり(2A) 交流のできる駄菓子屋をつくらう 渡邊 咲奈(2B) 活性汚泥の分解の働きを利用した廃棄野菜の液肥化
---	---



編集雑記

本年度活動を振り返って

何かに遠慮することなく、我慢することなく、自分たちの信じる道を生き活きと突き進む縣陵生の姿。それを支援し、見守る周りの方々の声。今年度の「PTA会報 縣陵」でお伝えする、お手伝いができ、嬉しく思います。100周年という大きな節目を迎え、また新たなスタートをきる縣陵生がさらに輝く日々が送れますよう願っております。お世話になった先生方、委員の皆様、ありがとうございました。(広報委員長 百瀬太郎)

